

『 授業実践を通した研修に還る 』



【はじめに】

後志教育研修センターは後志管内20市町村が管内の教職員、社会教育担当者等の資質・能力の向上を目指した研修講座事業等を協働で実施することを目的として設置されたものであります。昭和50年に発足し、令和4年度で設立47年目を迎えます。コロナ禍の状況下にもかかわらず、各市町村教育委員会をはじめ、北海道教育庁後志教育局、各教育関係機関や研究団体のご支援とご協力により、本年

度の研修講座開催の体制を整えることができました。

【子供たちのために】

次代を担う子どもたちが多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることを目指して、小中学校で全面実施されている学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」の下、改訂の大きなテーマである「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて学校現場との連携を一層密にした授業改善を促す研修講座となるよう策定しました。

【研修の灯火は燃やし続ける】

昨年度はコロナ禍の中、受講者数は611名の参加がありました。これは小樽後志の全教職員数の凡そ45%にあたります。感染対策で学校現場では大変な状況になっているにもかかわらず、多くの教職員が研修に対して真摯に取り組む姿に心より敬意を表したいと思えます。当センターはこのような教職員の意欲に応えるべく、研修の灯火は燃やし続けるという姿勢を今一度深く認識し、その運営に当たってまいります。本年度の基本的な考え方は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、授業実践を通した集合研修とし、次のように実施します。

- ① 全ての講座を午後からの半日日程とする（13:00～16:00）
- ② 各講座は授業実践を通した研修内容を策定する（3パターンの作成）
 - A 授業実践を入れた研修内容
 - B 授業実践は行わず、センターで集合研修（まん延防止等重点措置が適用された場合）
 - C オンライン研修（緊急事態宣言が発出された場合）
- ③ 学校での授業実践と管外外部講師の招聘は感染状況を見ながら判断する

【教育は人なり】

これからの学校教育は、ICTが学びの一つの手段としてよりウエイトを占めてくるのは確実であります。しかしながら、どんなに科学技術が進歩しても、教育という営みが、人間が人間をより良い人間に育てていく営みである限り、教育する人間の人間性や能力・態度が教育をうける者に影響してくるのは否定できません。それは、教師の生き方そのものが子どもにとって鏡になるからです。コロナ禍だからこそ、原点に戻ることを忘れてはならないと考えます。学校教育の本質は「流行」にあるのではなく、「不易」にあることを改めて心に留め置きたいものです。

【むすびに】

結びになりますが、講師陣の皆様には厳しい状況下にもかかわらず、本当に快く講師を引き受けていただき、そして授業実践に生かせる研修資料を準備していただいたことに改めて感謝申し上げます。センター職員一同、今年度も多くの教育関係者の皆様を受講されるのを心よりお待ちしております。

令和4年4月

後志教育研修センター
所長 長谷川 誠